

## 1. 生きる力のない子供を量産する日本

- ・世界の中で元気がない日本。この先も低迷が見えている
- ・日本円の価値の下落
- ・引きこもり、ニート人口の増加
- ・友人の医師の発言「この国は使いものにならない大人を量産しているんですよ」

## 2. 生きる力とは何か

### ①飯が食える力

### ②モテる力

- ・頭が抜群にいい人、塾講師の経験から、この二つに集約されると考えた
- ・頭がいい＝テストの勉強ができる ではない
- ・本当に頭がいい人は自分なりのビジョンを持っていて、本質を見切ることができる力をもっている
- ・テストの点数ではなく本当の実力差が出てくる一社会人になってからの力

## 3. 頭の良さを作るために何を伸ばすのか

### ① 見える力

### ② 詰める力＝めげずに最後までやりきる力・・・これらのために教材「なぞペー」を開発した

- ・そのためには、生活と遊び 一番大事なのは遊びなんだ！ということを確認している
- ・脳というものは、やる気をもって集中して反復したものは伸びる。この原則だけ
- ・なんといっても外遊び、自然の中が一番いい

### ◎自分で決める、ということに満ち満ちていることが肝 だから「野外体験」

→→「いもいも」ぜひチェックを。

## 4. 放っておくことが大切

- ・引きこもりに圧倒的に多いのは長子長男
- ・いわれすぎて放っておかれてなくて、やらされ続けている子ほど生きる力を潰される

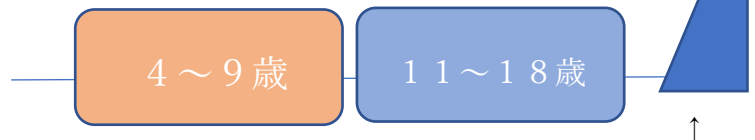
- ・子どもがのびのび暮らす環境がどんどん削がれてきている
- ・6年生になったら無人島に行ける！というのが花まる学習会の生き生きさせる仕組み

## 5. この講演会ができた経緯

- ・花まる学習会始めてびっくりしたのは、なんでお母さんたちこんなにイライラしてんの？ってこと
- ・僕は「お母さん僕のこと好きなんだな」ーっていつも思っていた  
お母さんってにこにこなものだ、って思って熊本から出てきて東京ではなまる始めたら、鬼ばあがいっぱいいる！  
やばいじゃん、関東のかあちゃん！と思って。どうしたよ、お母さんたち、と思って、講演会を始めた
- ・最初はきょうだいを比較しちゃいけません、怒っちゃいけません、なんでも手を出しちゃいけません、とか、ありきたりな教科書的なことばかり言っていた。するとアンケート内容が散々だった  
「あなたは女を母をわかっていない」というアンケート回答
- ・数年かかって、一万人以上から書かれ続けたときに、「俺こそがわかってないのか！！」と電撃が走って謙虚になり講演内容を改めた
- ・お母さんに本当のところ、寄り添っていなかった、本当のところをわかっていなかったと思ってこの講演内容を作った
- ・今日はその第一弾です

## 6. 愛とはひいき

- ・幼児期と思春期の違いを理解すること  
赤い箱=幼児期 と 青い箱=思春期  
は違う。



このことが分かっていると落とし穴=子供がうまく育たない

- ・愛としつけをベースとして何かに秀でた人に育てたかったら好きを突き詰めさせる

### ◎愛とはひいき

私こそかわいがられたと思って全員が育つことが難しい そのように接することが難しい

- ・脳の根幹は認められている、愛されているという感覚と関係しているので、その部分が満たされないといくら外側（大脳新皮質=勉強というゲーム）ができてても冷え切った人間に育つ
- ・小学6年生の時の高野先生のおかげ

「高濱君、君は違う！頭がいい。君は熊本高校行けるよ。俺はわかる。君だったら九州大学くらいいける頭だよ。学校の勉強簡単に思えるだろう？君は熊本高校行ったらみんな勉強できるスーパーな人だらけなんだぞ、今のうちにシミュレートしておきなさい。僕が勉強見てあげるから、いっぱい自習しなさい」→一気にその気になってしまって先生に褒められたい、裏切りたくないからずっと自習した。絶対に答えを見ないで考えに考え抜くことをした。

- ・中学に行ったら県の中で一番だった  
↑ノーヒントで難問を攻略するのが一番脳が伸びると脳科学でも説明されているということを後で知った。それをやっていた
- ・50過ぎてから小学校の講演会に呼ばれて校長=小学校の同級生 と会って話したら、なんと彼にも「すごい、お前の平泳ぎは見たことない！ものすごい！少なくとも大学には行くだらう。今のうちに勉強しておけ！」と言っていたらしいことが初めて分かった。その先生のクラスの生徒は皆高学歴になっていたことが後で判明
- ・自分は小学校の時のその経験だけでずっとウサギと亀のウサギの気持ち「俺はいざとなって本気出せばめっちゃすごい」という気持ちで生きてきた
- ・人からの賞賛が力になる

◎具体策として、7時40分になったら膝にのせて（くっつくことが重要。動物として落ち着くことが大切）1対1の時間をしっかり作って、55分になったら二人目、というふうに順番に1対1の時間をつくってあげる。そしてイチャイチャする システマティックに行く  
まんべんなく愛をふりまかなくちゃなー、という漠然とした理解だと必ずうまくいかない  
思春期でも1対1の時間をとることですごくうれしがる（心の底で）

## 7. しつけ

- ・打たれ弱い子が本当に多い
- ・優しくちゃんと育てるのは得意 強くするのは苦手 これが母
- ・ほうっておけばいいんだけど、口出ししてストップをかける
- ・喧嘩をしなかった子は悲劇ですよ
- ・いやらしい部分も自分だけ認められたい部分もある自分も受け止めて初めて他人と対峙するという段階に行ける
- ・朝起きられない子ども  
「不登校、ひきこもりは9割は治せる」新書 が出ている ぜひ読んでほしい  
引きこもりの子どもに規則正しく朝起きることだけやれと言っても、これが本当にできないということが書いてある
- ・「土曜日曜くらい寝坊したっていい」というグダグダカードを幼児期から使ってなあなあに育てていると、思春期になって起きられないことになる 寝坊頻回の人が社会で信用を得られるはずがない
- ・箸の持ち方、口の中を見せながらくちやくちやく食べる作法、・・・結婚して子供をもつようになるとたちまち腹立たしくなってくる
- ・夫婦というのは恋愛関係をもった二人が子供を育てていこうという決意のもとに同盟を組んだ関係  
離婚の突き詰めた原因は、結局は常識と常識のぶつかり合いである
- ・思春期になると、お互いに◎◎は～なものだ、という常識を見出しどんどんそれを固めていく

◎ここにいる新しい命である子どもに対して、新しい価値観、ルールを確立することが子育て

家訓にして書き出すくらいでよい

◎「嘘を言うな」という家訓だった場合に、絶対に「嘘言ってるじゃん、きれいごとだけ言ってるじゃん」って突っ込まれることになる。その時に、「うちはこのなの」と決めつけてくれるだけでよい。それで反論はできない。そういうのがしつけ。

◎決めることが大事。中身はなんだって、結局それを家訓にしようがしまいが、育ちますよ。

夫婦で決める。ぶれない軸ができると、心が安定する

正解はない!!! 一家の方針がぶれることこそが、子どもの育ちを残念な結果にする

例) 挨拶、はいという返事、靴をそろえる、これだけは守れ、守らなかったときはめちゃ厳しかった、と  
いう家の子、立派に育っている

↑

↑これが大事

## 8. 赤い箱→青い箱（「反抗期が来た」）というときに、関わり方をシフトチェンジすべし

- ・赤い箱のうちは、言っても結局は親が頼み。青い箱に来た途端に外の師匠が大切になる
  - ・先輩や外の師匠には従順というのが思春期のセオリー
  - ・外で鍛え上げられることを望むのが思春期
  - ・沸々と「この親の庇護の元にいる場合じゃない」本能的に干渉を嫌うようになってくる
  - ・外の師匠を理想化しがめる すげえ！という人を見つけない欲求
  - ・師匠が見つからず放置しておくだけだとただのだらしない人になる
  - ・中高で厳しい部活動を体験している子はとても育つという結果が出ている
  - ・はなまる学習会では、青い箱でいつまでも子離れできない家庭には、外で恥かいてこい！と山村入学を勧めている
  - ・青の箱に入ったら哲学を始めなければならない。子供が求めているのは大人の本音。
  - ・べき論ではめちゃくちゃ反発するが、職場の苦労や理不尽には耳を傾けてくるものがある
  - ・同性親として伝えられることも出てくる。入り口としてはコイバナはとてもいい  
それぞれの美意識でそのまま伝えればよい
  - ・父子関係の場合、母子関係ほどおしゃべりが盛り上がらない。男脳は関係より本質を突き詰めた。じっくり内省したい。ユダヤ人、教育の世界で言われていること、全部文化としてやってる。お父さんと息子が二人旅に出るとよい 話は盛り上がらなくても二人旅に出ると自分のためだけに時間をとってくれたことはぐれていても嬉しい キャンプや原爆記念館
  - ・子どものときにいやなことがあったほうがよい  
少しずつ厳しい目に合うのがよい。もちろん程度の問題だがいじめがあるのが社会
- ◎子どもはトラブルに遭って乗り越えるから強くなる これが母の弱いところ だからこそ強調したい

## 9. 母は太陽たれ

- ・お姉ちゃんにきつい、弟に甘い、旦那とうまくいってない、ワンオペ　こういう家庭が溢れている
  - ・結局母が家庭の中では偉大。母がいかに笑顔になれているかが大切
  - ・昔はおばちゃん軍団が入り込んできていた、赤ちゃんがかわいいから。若くて不安なお母さんをだんなとのいさかい、ママ友とのいさかいもゼーンぶ吸収して受け止めてくれていた百戦錬磨のおせっかいおばちゃんがいた　ねぎらったり共感したりそっと触って抱きしめてくれるようなそういう他者の存在が不可欠だった
  - ・生まれたとたんにごく不安になるように母の遺伝子ができていて、元々群れで生活してきたと生物学的にもわかってる
- ◎地域社会のコミュニティが母親を笑顔にしていたのに今は違う。だからにこにこカードを外にとりにいかねばならない。3つくらいカードを持っておくこと。
- ・楽しかったー！と笑顔ですっきりできる！というそういうのを必ず持つておくようにすること
  - ・妻をにこにこにすることに集中するのが夫の仕事。そうしておけば子供が育っちゃうよ。ということ
  - ・できれば旦那、旦那じゃなくても子育てしているお母さんのことをそれぞれの立場で自由研究して、どうしたらこのお母さんが笑顔になるか、考えるのが一番の子育て支援になると考えている

### 【事例】小6男子塾ジブシーいじめられ

どこの塾に行ってもうちの子はいじめられる、どうなっているんですかね？という母でも普通に考えてお子さんにも問題あるでしょ、という話

1時間目でいじめられる理由わかった

とても勉強はできる　別のクラスの子が入ってきたらすかさず「あれえ？隣のクラスの子がはいってきちゃってますねえ～」嫌味たっぷりに大きな声を張り上げる

つまり成績が良い人は人を差別していい、立場が上ともいうような価値観に育っているではないか　すぐに親面談を開始

この子の年長からの偏差値表です、と棒グラフを持参してくる母

そのくせ専業主婦の母、いつもコンビニ弁当なんです！！

社会の枠組みばかり見ている人たちって大体不幸になる

自分のハートを見ていない　自分は本当は何に感動して何をしていきたいのかということが見えていない、見てこなかった

この事例は、一目、比較、やらされ、コンプレックス　…社会の枠組みばかり見ることにドはまりしている母

わが子にとって親がすべき一番大切なことは、「美味しいごはん食べてるかな、寒くないかな」と気に掛ける、そういうことでしょ

勉強ができる、偏差値が上がることこそが大事、という価値観

その子が、先生が他の生徒とプロレス遊びをしているときに、遠巻きにじっと見ている  
「お前も来いよ！」いや、おれはいいです、服汚れるんで。とかいって、でもそのくせじっと見てる。  
「あいつ絶対ほんとははிரいたんだよな」→それでようやく誘い入れたら、シーっ！！と爪を立てて応戦してきやがった。これは喧嘩死なれていないかと確信して。夜母に電話。「深刻なことに気づいちゃったんですけど、喧嘩してきてないんじゃないですか？」「ええ、喧嘩なんてさせません（得意げにいう母）」

## 【小学校のときのいじめられ体験】

小学校5年生の時にいじめられた

頭が大きいことをとても気にしていました。からだのことって気になるんですよ。どんなことでも。旅先で「あたま、あたま」って聞こえる。ああやっぱり頭大きいことみんな言っているんだ、って思っていました。でこっばち！でこっばち！ってクラスで祭りのようにみんなが盛り上がってしまった。入り口でもじもじして佇んでしまった。=このときに自分でいじめすいっち=いじめてください、というメッセージを出してしまった

毅然としている人にはいじめは来ません。喧嘩にはなるかもしれないけれど、いじめは来ません。

「ばかじゃん？」と一笑にふせばいじめには発展しない。

今思えばただ単におもしろくてもりあがってただけ。でも当時は「世界は終わった」「自殺しよう」と思った。橋の上から下を見たり。

◎自殺しようと思ったことありますか？なぜ思いとどまったんですか？

「あのかわいがってくれた母を悲しませたくないから」が圧倒的

父を、はランキングに入らない！！つまりそれだけ母は圧倒的な存在ということ

◎最後の最後の砦になってくれる一言だけ言ってくれたら生き延びられる。増して母が言ってくれたらすごく強くなれる。

「世界中が敵になってもお母さんは味方だよ」というメッセージさえもらえればよい

ある時全校集会で「えー、おはようございます！頭の大きい高濱で一す。皆さんよりも倍脳みそが入っておりまーす。（頭がマイクにあたりハウリングしてバカ受け）」これで一気に形勢逆転した母親だけが支えてくれた。そういう存在。

---

## 【1】つまらない大人になる条件

1. 人目を気にしすぎる(先生にほめられる生き方をしようとする)

・・・好きにしてよい、が分からない 自分の心をいつも見ているということが大切

いいお母さんと見られようと思って子育てしていると子どもがドツボにハマる

2. 比較する(誰かと)

…きょうだい比較から始まる 比較するのは仕方ないが、気にしすぎる、ネガティブに比較する

### 3. やらされ(体験)

…いい子ぶってやってみせるのも含める 心に穴を開けることになる

### 4. 心の壁=コンプレックスが大きすぎる

…物事の欠点や悪いところばかりを見ようとする癖ができる 悪い魔法をかけられたかのよう。成功者は皆、根拠無く自信家。良い魔法がかかっている。  
自分の場合、小3の時にパズルが得意なんだなボク、と小6の時に勉強が特別にできるボク、という魔法を先生達にかけてくれた

## 【2】家庭内暴力家庭に多かったパターン

- ・お母さんが一人で頑張って子育てしようとしているがいつもイライラしている  
お父さんからすると家に帰ったってお母さんがイライラしていてこんな家庭に帰ったって仕方ないよ、って感じで父母の関係が完全に破綻している  
家庭内でお父さんの存在感がめちゃくちゃ薄い  
お父さんはすごく稼いでいたり社会的には地位が高かったりするのだが家庭というカプセルの中ではそうではないというパターン
- ・昔はとてもイライラして不安で分からないことだらけの新米お母さんの近くにお節介の先輩お母さんがいた
- ・子どもが出来るようになったことを認め、共感したりアドバイスしてくれる存在がいた  
この存在がたった一人でもいるかどうかがとても大切になってくる
- ・お母さんネットワークが無くなってしまった中でお父さんの存在感が無くなってしまったというのが真実。
- ・夫婦間で子育ては「決意」この人と子育てするんだ、という決意の関係。  
逃げずに向き合い続けられる人間力がお互いになればよい。ぶつかりあっている夫婦、何だかんだ言い合っている夫婦であればまだまし。  
もう相手を諦めました、もういいです、空気みたいなもんと考えてますんで、と言うようになるとまずい。良い家庭に発展していくことはまずない。  
父親は多くの場合それなりにやってると自負していたりするもの。子どもが暴れるようになって初めてどうしようどうしよう、となる。そして、家族の中に誰かキーマンとなって「余計なモノをすぐ買い与え」をしている人物がいる。
- ・家庭内暴力のケースにおいて、暴力を振るう子どもは外のパワーある人間にはしゅんとしていて家族にしか暴力的な姿を見せることがないのが常。

☆200年前に書かれている「人間をだめに育てようと思えば簡単だ。すぐにほしがるモノを買ってあげればいい」

…本だけは、何でも買ってあげるよ、という家はある

低学年時代は小遣い無くてもよい。とにかく家庭のルールで  
苦労人ほどパンチのある心を創る  
お父さんと休日に公園に行くたびに何か必ずコンビニによって買ってもらうとい  
う家こそが、家庭内暴力になり得る家

### 【3】お母さんに求められること

三重県のあすなろ学園に関わっていた亡くなった精神科医の先生が花まる創成初期に応援をして無償で  
相談に乗ってくれた その方が教えてくれた

#### (1) 仕事を見せる、仕事を語る

子どもにとって学校とは、「やらされ」に合わせなくてはならない場。しかし、仕事はその点違う。よ  
ーしこれなら、という仕事を見つける子どもは強い。

アルバイトだけでもさせると違う。不登校になった子に対し、学校に戻る前にアルバイトを勧めると  
むしろ学校の先生と親がこぞって「待って下さい！まずは学校です！」と妨害してくる。しかし花まる  
は民間なので、その先生の通りにアルバイトを勧めてきた。すると、仕事で関わると、人から正当に評  
価されたり感謝される経験ができる。それが生き活きとしたリアルさを生み家庭内暴力が改善する  
という事がよくあった。

親の仕事の姿は、子どもにとってはかっこいい。どんな仕事でもよい。普段の家の姿と違うのだから、  
何でもよい。

☆子どもが母親に手を出してきたときにどう対応すべきか

自分の中に残虐な部分を持つてんだ、という認識を持つことが大切

人間というのは延髄(本能的、野生的)な部分から大脳新皮質(社会的で理性的で人間的な脳)までが  
まるっと全部セットで人格を形成しているということを理解すべき。

延髄部分に働きかけなければならない。つまりひるむ、うじうじ、おずおずとなってしまうと、子  
どもは食える=いじめられる存在と認識してしまい、一気に子どもの暴力性に火がつくので、女を  
捨てて猛烈に反撃する事が大切。やべ！この母親、こんなに怖いところあるんだ！！と思わせな  
いとならない。

#### (2) 「父と子の遊び」を作り出す

心を病んで相談に来ていた子ども全員、父親が「私はこの子が子どもの頃、この子と遊んだ記憶があ  
りません」「この子とどう遊んでいいかわかりませんでした」との語りがある事が共通していた

・・・成人した雄の筋肉が強くはね返ってくる感じを体験しているか

これが大切だということになり、全国でどこにもこの体験に取り組んでいるところがないことか  
ら、上野公園全域を使って「探偵団」というイベントをやった

いつも高濱代表がどこかに隠れているというルールをやった

理系パパが得意な内容をやった。上野公園に 200 組位集まってしまうもうやるな

と公園側から怒られた位盛況だった

イベント翌週の作文で「あんなに夢中でかっこいいパパは初めてみました」と

その後各地で同様のイベントを行った



…金スマの取材が来た時、「スカイツリー探偵団」にロケがきた。この時、一参加者の父親の役を演じたが、子役や母親役がうますぎて、結局最後まで誰にもばれなくて報道もされなかった。笑  
この時に気付いたのは、参加者の母親が皆、笑顔だったこと。

◎お母さんが笑顔になれるなら、何でもやってみて欲しい

仕事でも趣味でも習い事でもなんでも。

お父さんは何があったらお母さんが笑顔になるのかを研究してほしい。

…家の中にいるのに、休みの日なのに、子どものために動こうともしない父親が苛立ちのもとだったので、この「探偵団」のイベントは、結局はお母さんのための笑顔づくりのイベントだったんだと気付いた。

◎働いていようが何だろうがお母さんが生き生き笑っている家庭の子どもがすすくと育つということを忘れずに

◎家の中は一番だらしのない状態。それをお互いに認められるとよい

お母さん自身が自分のやりたいことをちゃんと見つめて無理なく生きていないと、心からの笑顔が出ない家庭になる。がんじがらめの価値観で外からの見た目だけにこだわり続けて自分の心を見ないでいると不幸

◎お母さんを見るとすぐに何か抱えている家庭かどうかわかる。眉間を見ると大体分かる

## 【事例】小1男子、盗癖

講演会中、表情が暗い。家庭に深刻な問題がありあそうだというのがありありと感じられる表情。最後楽屋戻り時に宿題をやらないという事で話しかけてくる。そんなことで？と感じたがその後ちよくちよく宿題のことを相談してくる。そして数回後に突然号泣し息子の盗癖を吐露。ぶち切れる母。母は父に息子の問題を話せていない。父→母へのDVと虐待が起きていると確信。母は孤独。お母さんが毎日どこかに出てくださいと助言すると、怪訝そうに「わかりました」と言って帰る。忘れてたくらいだったが、その後、道ばたで話しかけてくる。「全然昔と違いますよ?!」「何したんですか?!」同じ傷のあるグループに入ってみると初めて本当に何でも話せたという。自分と同じ目に子どもを遭わせてしまった親と初めて出会えて自分が変わったという。「正しい子育てをしなくちゃ」と思っていたと述懐。

## 【4】叱り方の問題

・叱り方だけは母親の弱点があるからそれだけは気をつけて下さい!!

・3原則 厳しく・短く・後を引かず

お母さんが不安定になってぎゃーはいやだが、子どもの事を思ってしっかり厳しく怒ってくれるのがいい

富士山のような形で。八ヶ岳連峰ではだめ。

・愛が深くて大きいお母さんほど叱り方がヤバいと鬼ばばになるので気をつけて下さい

・女性は、低い声で 丁寧に 真顔(目をそらさせない) これが一番怖い

- ・幼少期、お母さんが外でやってきたことによってお母さんが笑顔でほめてくれた、自分によってお母さんが喜んで笑顔になってくれるためにだけ頑張れる
- ・今日、今やったことだけを叱るように  
いつもいつもぎゃーぎゃーやっているお母さんでいると、11歳くらいからの青の箱の段階に入った時点で子どもには何も効かなくなる

## 【5】正しい子育て幻想を捨てる

答えはない 哲学・夫婦の決意

## 【6】一人っ子は旅に出すことで伸びる

異学年、異性、外遊びのある寝泊まりが理想

サマースクールで出征するのかっていうくらい大騒ぎして大泣きして母子ともにもらい泣きするほどのお別れ劇を演じた子どもが母親が見えなくなってバスガイドに「お母さんと離れて寂しいよね、悲しいよね」と声かけさえると「全然。。ああするとお母さん喜ぶんだ」と言っただけのける。

## 【事例】 高2女子 リストカット、自殺未遂

無関心ほどこわいものはない

リストカット家庭の多くがリストカットする子どもに対して無関心

大抵「うちは普通だと思っていました」と親が言う

きょうだい姉妹がいる家庭において愛情争奪の負け組が出る問題。